

平成27年度 長野県シニア大学 学生募集

シニア大学は、仲間とともに健康でいきいきと社会参加活動をする方の養成講座です。

入学資格

おおむね60歳以上で、学習意欲が旺盛であり、積極的に地域活動を目指す方。

(平成24年度以前の長野県シニア(老人)大学卒業者も可)

受講期間

2年間(年間17日×4時間)

講座内容

- ①教養講座(知識や教養を身につける講座)
- ②実技講座(趣味や健康づくりの講座)
- ③実践講座(社会参加活動を実践する講座)

授業料

年額 8,500円

その他、教材費等は自己負担。

募集期間

2月2日(月)～27日(金)

募集案内・入学願書等入手

問い合わせ先

佐久保健福祉事務所福祉課

0267(63)3141

町保健福祉課介護高齢係

31)2512

大切な人を亡く されたあなたへ

佐久あすなろの会(佐久地域自死遺族交流会)へ参加してみませんか。

家族を自死で亡くした場合、残された人はさまざまな感情・想いを抱えます。佐久あすなろの会は、同じ体験をされた方々と安心して気持ちを語れる場です。

日時 2月7日(土)

午後1時30分～3時30分

内容

- 1、受付
- 2、会のルール説明
- 3、自己紹介
- 4、分かち合い
- 5、コーヒータイトム
- 6、参加しての感想等

場所

佐久市内(参加を希望された方にお知らせします)

対象

家族を自死で亡くされた方(自死された方の親、配偶者、兄弟、子ども)

参加申し込み・問い合わせ先

佐久保健福祉事務所

健康づくり支援課 保健師

0267(63)3164

～新成人の皆さんへ～ 20歳になったら 国民年金

国民年金は、年をとったときやいざというときの生活を、現役世代みんなで支えようという考えで作られた仕組みです。若いときに公的年金に加入し保険料を納め続けることで年をとったときや、病気がけがで障害が残ったとき、家族の働き手が亡くなったときに、年金を受け取ることができる制度です。

○国民年金のポイント

★将来の大きな支えに

国民年金は20歳から60歳までの人が加入し、保険料を納める制度です。国が責任をもって運営するため安定しており、年金の給付は生涯にわたって保障されます。

☆学生納付特例制度

本人の所得が一定額以下の学生は、保険料の納付が猶予されます。対象者は、学校教育法に規定する大学(大学院)、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校および各種学校(修業年限1年以上)である課程)、一部の海外大学の日本分校に在学する方です。

☆若年者納付猶予制度

学生でない30歳未満の方で、本人および配偶者の所得が一定額以下の場合には、保険料の納付が猶予されます。

問い合わせ先

小諸年金事務所

(22)1080

町保健福祉課健康推進係

(32)2554

日本政策金融公庫 国の教育ローンを ご利用ください

国の教育ローンは、公的な融資制度です。国内外の、高等学校、短期大学、大学、専修学校、各種学校等に入学・在学するお子さまがいるご家庭が対象です。入学前に必要な入学金や授業料に使えます。

融資額

お子さま一人につき
350万円以内

利率

年2.25%

母子家庭または世帯年収200万円(所得の場合は122万円)以内の方は年1.85%(平成26年11月10日現在)

問い合わせ先

教育ローンコールセンター

0570-0008656

(広告欄)

自家焙煎珈琲豆販売

SANGA
COFFEE



カップが自然に傾くね。
後味スッキリ、サングの珈琲。

人生あれこれあるから
珈琲が手放せない。

恋をした、と
のぼせている人に
「はい、コーヒー」。



長野県北佐久郡御代田町御代田1972-1 (小田井交差点西入ル)
11:00～18:00/年末年始を除き無休 Tel.0267-32-6718/Fax.0267-32-6784

灯油の漏えい事故にご注意ください

11月22日に発生した長野県神城断層地震により、ホームタンクが転倒し、灯油が漏えいする事故が多発しました。

これらの事故は、ホームタンクの固定や防油堤の設置により防止できます。

灯油の流出は、火災や土壌汚染にもつながります。地震の発生に備えて、今一度点検を行い、早急に転倒防止、流出防止対策を講じましょう。

また、例年、暖房器具を多く使用する冬場に灯油の漏えい事故が多発します。灯油の取り扱いにも十分注意しましょう。

転倒・流出防止対策

●ホームタンクの固定

地震などにより転倒しないよう、ホームタンクの脚をボルトなどで固定しましょう。

●防油堤の設置

一般家庭に設置義務はありませんが、防油堤を設置することにより流出を防止する事ができます。



灯油取り扱いの注意点

●ポリタンクなどに小分けにしている時は、絶対にその場を離れない。

●バルブをしっかり閉めたかどうか必ず確認する。

タンクの残油量を確認し、急に減少した時には漏れていないか点検する。

救急車適正利用のお願い

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。

また、救急車で搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状もあります。

救急車や救急医療には限りがあります。救える命を救うため、救急車の適正利用にご理解とご協力をお願いします。

こうしたケースで救急車が呼ばれました

～本当に必要か考えてみましょう～

- 蚊に刺されてかゆい
- 海水浴に行って、日焼けした足がヒリヒリする
- 紙で指先を切った。血は止まっているが…
- 病院でもらった薬がなくなった
- 今日入院予定日だから、病院に行きたい
- ヘルパーを呼んだが来てくれなかったので、代わりに救急車を呼んだ
- 病院で長く待つのが面倒なので、救急車を呼んだ

結果、緊急性が高い方への対応が遅れてしまいます。

